

岐阜キリシタン小史(42)―岐阜を訪れた宣教師たち②― 順応者フロイスと厳格者カブラル

16世紀の戦国時代に日本へ渡来したイエズス会宣教師たちは、キリスト教の布教という共通の使命を帯びながらも、その宣教戦略においては大きく異なる考え方を持っていた。巡察使アレッサンドロ・ヴァリニャーノやルイス・フロイスに代表される「順応主義」と、フランシスコ・カブラルに体现される「非順応主義」は、異文化との接触における二つの対照的なアプローチを示しており、日本における初期キリスト教の展開に影響を与えた。この両者の思想と行動の対立は、単なる個人的な意見の相違に留まらず、イエズス会全体の東方宣教方針を巡る重要な議論を内包していた。

寛大な「順応主義者」ルイス・フロイスの生涯

まず、寛大な「順応主義者」として知られるルイス・フロイスについて見ていこう。フロイスは1532年にリスボンで生を受け、若くしてイエズス会に入会し、東方宣教という壮大な夢を抱いた。彼は1563年、九州の横瀬浦に上陸することで日本の地を踏み、その後の生涯を日本で過ごすことになる。

フロイスを語る上で欠かせないのは、彼の柔軟な姿勢と、鋭い観察力である。彼は驚くべき速さで日本語を習得し、京都を中心とした日本の複雑な社会構造や風俗を深く理解しようと努めた。彼の最大の功績は、単なる宣教活動に留まらず、日本での出来事を詳細に記録し、ヨーロッパ本国に伝えたことである。この記録こそが、後に全五巻にもおよぶ大著『日本史』として結実し、戦国時代末期から安土桃山時代にかけての日本の政治、社会、文化、そしてキリシタンの動向を伝える唯一無二の史料となったのである。彼は、畳の上での作法、茶の湯の精神性、武士の厳格な規範といった日本文化に対して、ヨーロッパの視点から敬意をもって記述した。この文化への敬意こそが、彼が実践した「順応主義」の基盤であり、日本の信徒を増やし、教会の土台を築く上で決定的な役割を果たしたと言えるだろう。



ルイス・フロイス像
横瀬浦公園(長崎県西海市)

厳格な「非順応主義者」ジョアン・カブラルの姿勢

一方、厳格な「非順応主義者」としてフロイスと対立したのがジョアン・カブラルである。カブラルはフロイスよりやや遅れて1570年来日したが、彼はイエズス会内部で組織運営に長けた、非常に官僚的な手腕を持つ人物であった。彼は来日後すぐに、宣教地における教団の全権を握るイエズス会日本準管区長代理という重責に就き、日本の宣教活動の全てを決定する絶大な権限を持っていたのである。

カブラルを特徴づけるのは、教義の純粋性への過度な執着と、ヨーロッパ中心主義的なエリート意識である。彼は、キリスト教の教えは絶対的な真理であり、異教徒の文化や習慣と安易に妥協することは、信仰の純粋性を損なうと強く主張した。カブラルにとって、日本の文化、特に仏教や神道は徹底的に排斥されるべき対象であり、宣教師が日本の生活様式や作法を取り入れることに頑なに抵抗したのである。彼の厳しい姿勢の背景には、日本人にはヨーロッパ人には及ばない知性や信仰心しかないという根深い人種的・文化的な差別意識が存在していたと指摘されている。彼は組織の純粋性と効率を重視し、現場の状況よりも本国の教団規律を優先する、融通の利かない宣教方針を押し進めた。✚

カブラルの写真
I can't find it

【カブラルの日本人を評した言葉】

私は日本人ほど傲慢、貪欲、不安定で、偽装的な国民は見たことがない。…日本人は悪徳に耽っており、かつまた、そのように育てられている。

(参考)初期イエズス会宣教師たちの活動

* 下表にある アダプテーション戦略 とは、布教を成功させるため、キリスト教の教義の本質は変えずに、現地の文化、習慣、社会構造に最大限に順応し、受け入れられやすくする方策。

①フランシスコ・ザビエル(Francisco de Xavier)

生没年・生没地	1506 年（スペイン・ナバラ王国）-1552 年（中国・上川島）
役割と業績	日本におけるキリスト教布教の創始者。1549 年に初めて日本にキリスト教をもたらした。大内義隆や島津貴久など有力大名に謁見し、国家レベルでの布教の足がかりを作ろうとした。彼の来日により、日本の歴史に大きな転換点をもたらした。
宣教活動	1549 年来日。鹿児島で布教を開始後、平戸、山口、豊後（府内）と移動。京都での布教を目指したが、情勢不安のため断念し、豊後からインドへ向かった。
日本の主な宣教地	鹿児島、平戸、山口、豊後（府内）
アダプテーション戦略	日本の権威への適応：日本の為政者の権威を重視し、高貴な身分（ポルトガル国王の使者）として振る舞うことで、布教の許可を得ようとした。後にインドの経験から、日本の文化や作法に近づくよう服装や進呈品を改めた。

②コスメ・デ・トーレス (Cosme de Torres)

生没年・生没地	1510 年頃（スペイン）-1570 年（天草志岐）
役割と業績	ザビエルと共に 1549 年に来日し、ザビエル離日後、日本布教の責任者（準管区長）として布教活動を主導。大友宗麟など有力大名との関係を構築し、九州におけるキリスト教拡大の土台を築いた。1563(永禄 6)年に大村純忠に洗礼を受けたか(?)
宣教活動	1549 年の来日後、主に豊後（府内）や平戸など九州を中心に活動。日本で最初のセミナリヨ（小神学校）の設立準備を進めた。
日本の主な宣教地	鹿児島、平戸、豊後（府内）、山口、肥前（長崎・大村・天草）
アダプテーション戦略	日本語による教義説明を重視。布教初期から日本人イルマン（修道士）の養成に努め、日本人の手による布教体制の確立を目指した。

③ガスパル・ヴィレラ (Gaspar Vilela)

生没年・生没地	1525 年頃（ポルトガルアヴィス）-1572 年（インドゴア）
役割と業績	ザビエルが果たせなかった京都での布教を本格的に開始した人物。将軍足利義輝に謁見し布教許可を得て、畿内での布教の足がかりを築いた。後にキリシタン大名となる高山右近の父、高山飛騨守に洗礼を受けたことでも知られる。
宣教活動	1556 年来日。豊後、平戸で布教後、1559 年に京都に上洛。その後、将軍暗殺により堺へ退避し、畿内を中心に活動した。
日本の主な宣教地	豊後（府内）、畿内（京都、堺）、平戸
アダプテーション戦略	京都での布教にあたり、日本の文化や権威への配慮を見せ、砂時計などの進呈品を用いるなど、指導層への接近を図った。また、堺の自治をヨーロッパのヴェネツィアに例えるなど、日本の社会構造を理解しようと努めた。

④ルイス・アルメイダ (Luís de Almeida)

生没年・生没地	1525 年頃 (ポルトガルリスボン) -1583 年 (天草)
役割と業績	元は裕福な貿易商で、後にイエズス会に入会。私財を投じて大分府内に日本初の西洋式病院 (施療院) を設立し、医療活動を通じて布教を促進した。
宣教活動	1556 年来日。豊後 (府内)、平戸、天草などで活動。
日本の主な宣教地	豊後 (府内)、畿内、肥前 (天草・志岐)
アダプテーション戦略	医療による伝道：当時の日本にはなかった西洋医学の技術と病院という慈善事業を通じて、キリスト教の「隣人愛」を実践的に示し、人々からの信頼と布教の機会を得た。これは、当時の日本社会のニーズに応える形でのアダプテーションであった。

⑤フランシスコ・カブラル (Francisco Cabral)

生没年・生没地	1529 年 (ポルトガル) -1609 年 (ゴア)
役割と業績	一時は日本準管区長 (当時日本は準管区とされていた) を務めた。1578 (天正 6) 年大友宗麟に洗礼を授けた。また、巡察師ヴァリニャーノが推進した「日本のアダプテーション」戦略に強く反対し、宣教師は日本の慣習 (特に食事や服装) を極力排し、ヨーロッパ的な権威を示すべきだと主張した。
宣教活動	1570 年に来日し、主に畿内や九州で活動。
日本の主な宣教地	豊後 (府内)、長崎 (主に指導・組織運営)
アダプテーション戦略	アダプテーションへの批判と抵抗：カブラルは、日本の慣習への過度な適応はキリスト教の権威を損ない、宣教師の品格を低下させると主張した。彼の姿勢は、当時のイエズス会内部で、「適応をどこまで許容するか」という重要な議論を巻き起こした。最終的にはヴァリニャーノの適応路線が支持された。

⑥ガスパール・コエリョ (Gaspar Coelho)

生没年・生没地	1530 年頃 (ポルトガル) -1590 年 (長崎)
役割と業績	カブラルの後の日本準管区長 (1581 年～1590 年)。キリシタン大名大村純忠から寄進された長崎の港を拠点に、イエズス会の勢力拡大を指揮した。豊臣秀吉との交渉においては、武力に頼るべきだと主張するなど、強硬な姿勢を取り、秀吉の怒りを買ってバテレン追放令 (1587 年) が発令される一因を作ったとも言われている。
宣教活動	1572 年来日。長崎を中心に活動。
日本の主な宣教地	肥前 (長崎)、豊後 (主に組織運営)
アダプテーション戦略	武威の誇示：ヴァリニャーノの柔和な適応戦略とは異なり、南蛮貿易の利益やポルトガルの軍事力を背景に、イエズス会の権威を示すことで布教を拡大しようとした。これは、ザビエルの「外交使節」路線の行き過ぎた解釈とも見なされる。

⑦ オルガンティーノ (Organtino Gnechi-Soldo)

生没年・生没地	1530 年頃 (イタリア・ブレシア) -1609 年 (長崎)
---------	----------------------------------

役割と業績	日本来訪後、主に畿内（京都・大坂）の布教責任者として活動。織田信長から信任を得て、京都に南蛮寺（教会）と安土セミナリヨ（神学校）を設立するなど、畿内での教会体制を確立した。親日家で「宇留岸伴天連 ^{ウルガン} 」として親しまれた。
宣教活動	1570 年来日。ルイス・フロイスと共に畿内に入り、信長・秀吉時代を通じて京都や大坂を中心に布教活動を行った。1587 年のバテレン追放令後も、小西行長の保護下で活動を続けた。
日本の主な宣教地	畿内（京都、大坂）、近江（安土）、豊後（組織運営）
アダプテーション戦略	日本文化への積極的適応：日本人の感情や作法を理解し尊重する姿勢を徹底した。親しみやすい人柄と、日本の風俗習慣にある程度まで合わせた生活態度により、日本人からの信頼を得た。カブラルとは異なり、ヴァリニャーノのアダプテーション戦略の方向性を確立した一人。

⑧ルイス・フロイス (Luís Fróis)

生没年・生没地	1532 年（ポルトガルリスボン）-1597 年（長崎）
役割と業績	織田信長・豊臣秀吉という天下人たちと直接交渉を行い、特に信長の知遇を得て、畿内での布教を支えた。日本の戦国時代に関する詳細な記録である大著『日本史』を著し、歴史家としても貴重な役割を果たした。
宣教活動	1563 年来日。主に京都、安土（信長の居城）、長崎などで活動。
日本の主な宣教地	肥前（横瀬浦）、畿内（京都、安土、大坂）、豊後（府内）、長崎
アダプテーション戦略	信長との緊密な関係構築：日本の為政者の権威を最大限に尊重し、信長個人との交流を深めることで布教の保護を得る、というザビエル以来の「権威への適応」戦略を成功させた。また、書簡の中で日欧の文化・慣習の違いを詳細に記し、後の宣教師たちに日本理解を促した。

⑨アレックスandro・ヴァリニャーノ (Alessandro Valignano)

生没年・生没地	1539 年（イタリアキエーティ）-1606 年（マカオ）
役割と業績	東インド巡察師としてアジア布教全体を統括し、日本布教の基本方針を確立した最重要指導者。セミナリヨ（小神学校）とコレジオ（大神学校）の設立により、日本人聖職者養成の礎を築いた。天正遣欧少年使節の派遣を企画・実現した。
宣教活動	1579 年、1590 年、1598 年と 3 度来日。長崎を拠点とし、全国の布教状況を視察・指導した。
日本の主な宣教地	長崎、豊後（府内）、京都（主に巡察・指導）
アダプテーション戦略	「日本のアダプテーション」の確立：日本の文化、礼儀、食事、服装を尊重し、宣教師にも日本の習慣に適応するよう徹底させた（日本の衣食住の採用、僧侶への敬意など）。これにより、キリスト教が日本社会に受け入れられやすい土壌を作った。

⑩ジョアン・ロドリゲス（通事） (João Rodrigues Tçuzu)

生没年・生没地	1561 年頃（ポルトガル）-1633 年（マカオ）
役割と業績	「通事（つうじ）」の通称で知られる優秀な通訳。日本語、日本の文化、特に茶道や武士の作法に精通し、豊臣秀吉や徳川家康といった権力者との交渉に不可欠な存在となった。また、『日本教会史』や『日本大文典』など、日本研究に関する重要な著作を残した。

宣教活動	1577 年来日。秀吉や家康の時代、長崎や畿内で活躍。マカオへ追放後もアジアで布教活動を継続しました。
日本の主な宣教地	畿内（京都・大坂）、長崎
アダプテーション戦略	権力中枢への深い介入：自ら日本の権威者たちの側に仕え、通訳・外交顧問という立場で布教の利益を守ろうとした。日本の文化・言語を深く理解し、その知識を外交交渉に活かすという、極めて高度な「言語・文化のアダプテーション」を実践した。

⑩ディエゴ・デ・メスキータ (Diogo de Mesquita)

生没年・生没地	1553 年頃（ポルトガル）-1614 年（長崎）
役割と業績	天正遣欧少年使節（1582 年～1590 年）に、ヴァリニャーノの補佐役として同行した。使節団の旅路を支える重要な役割を果たし、日本人の修道士（イルマン）たちへの指導を行った。
宣教活動	少年使節団のヨーロッパでの成功に貢献。帰国後、神学校での教育や布教活動に従事。使節団と共に帰国後、長崎のコレジオ（神学校）で教育を担当。その後、豊前国（福岡・大分の一部）で熱心に布教し、多くの信徒を獲得。1614 年の追放令により長崎で客死。
日本の主な宣教地	長崎、豊前
アダプテーション戦略	ヴァリニャーノのアダプテーション戦略の実践者の一人。日本の教育制度や修道士養成において、西洋の学問と日本の作法を融合させる教育方針に携わった。

(以上)